

乾燥に強いアカシア *Acacia holosericea* について

浅川 澄彦

1993年8月、当時、タンザニアのドドマ市およびその郊外で進められていた青年海外協力隊のグリーンベルト造成支援プロジェクトのサイトで、植えられて間もない *Acacia holosericea* とよばれるアカシアを初めて見た。平均年降水量が500mm弱というこのあたりの乾燥度合いは極めて厳しいが、グリーンベルトの一角で乾いた熱風にそよぐ若い植栽木を見て、いかにも頼もしく思ったものである。同じ頃、西アフリカのセネガル、ニジェールでも緑化を推進するプロジェクトが協力隊によって進められており、両プロジェクトで活動している隊員からの報告書で、これらの国々でオローと呼ばれている *A. holosericea* が乾燥に極めて強いらしいことを知っていたので、これがその *A. holosericea* なのかと納得したものである。

本種はもともとオーストラリア北部の原産で、西アフリカでは1970年代の初期に導入されたいが、東アフリカで植えられるようになったのはずっと遅く、1986年に開始されたケニアでの技術協力プロジェクトでも試植されたのは1988年のことであった。もっとも試植された当時は種小名が間違っていて記載されていたために、*A. holosericea* として認識されたのはさらに数年後のことであった。当時見聞きしたいろいろな情報を総合すると、ちょっとオーバーに言えば、これは乾燥地における救世主的植栽樹種の1つになるかも知れないと思ったものである。それから3年ほどして西アフリカを訪ねる機会があり、オローと呼ばれるアカシアを間近に見ることができたが、それが先年タンザニアで見たものと同じかどうかは確認できなかった。残念ながら当時は両者は同じ種であると信じていたが、後述するような事情があるとすると、比較検討の必要がありそうである。ちなみに、両者が同じ *A. holosericea* だとして、本種が

ASAKAWA, Sumihiko: Notes about *Acacia holosericea* Resistant to Dry Environment

(財)国際緑化推進センター

ほんとに半乾燥地や乾燥地に向けた植栽樹種かどうかについての評価であるが、たしかに乾燥には強そうであるが、どちらかという和低木～中木のたぐいであること、ニジェールで見たものは、砂丘の上だったこともあるが、植えて10年という林分がすでに伸びが止まっているように見えたことから、寿命が長くないことは確からしく、ともかくも早急に緑化したいという場合ならいざ知らず、長い目で見た森づくり用の樹種ではないように思えた。

ところで、アカシア属は世界の熱帯に広く分布しており、3亜属の1,200ないしは1,300種から成るといわれる。亜属は *Acacia*, *Aculeiferum*, および *Phyllodineae* で、さきの2亜属は葉が2回複葉であるが、900種を越える種を含む *Phyllodineae* に属する種の葉は仮葉（または偽葉, *phyllode*）とされている。この亜属は次のような7節に分けられる。*Alatae* (21), *Botrycephalae* (42), *Juliflorae* (235), *Lycopodiifoliae* (17), *Phyllodineae* (387), *Plurinerves* (212), *Pulchellae* (27) で、括弧内は MASLIN (1995) に記載されている種数(計 941)である。ここで話題にしている *A. holosericea* は、湿潤熱帯で近年注目されている *A. mangium* や *A. auriculiformis* などとともに *Juliflorae* 節に属する種である。

その後、*Juliflorae* 節のアカシア類の効用について解説した報文 (THOMSON 1993) を読む機会があったが、それによると、西アフリカでいう *A. holosericea* はこれを導入したフランス人技術者が間違えたもので、正しくは *A. colei* であると述べられていた。早速、この報文の著者に問い合わせたところ、親切にもご自分の報告の別刷もつけて返書が送られてきた。それによると、はじめ *A. holosericea* とされていた種はその後4種すなわち *A. colei*, *A. cowleana*, *A. holosericea*, *A. neurocarpa* に区別されており、西アフリカでこれまで植えられ

表 1 *A. holosericea* 近縁種の特性比較 (主に MASLIN & McDONALD (1996) による)

種名	仮葉先端の腺	莢果	花の小包	幹型	倍数性	樹高
<i>A. colei</i>	なし	強く屈曲	鍵型	多幹性	6倍体	4~5 m
<i>A. cowleana</i>	なし	僅かに屈曲	?	多幹性	4倍体	2~6 m
<i>A. holosericea</i>	あり	螺旋状に 屈曲	鍵型	中間型	4倍体	2~5 m または 6~12 m
<i>A. neurocarpa</i>	あり	螺旋状に 屈曲	弓形	主幹型	2倍体	3~8 m

注. 樹高は文献によってまちまちなので、ここでは MASLIN & McDONALD (1996) によった。

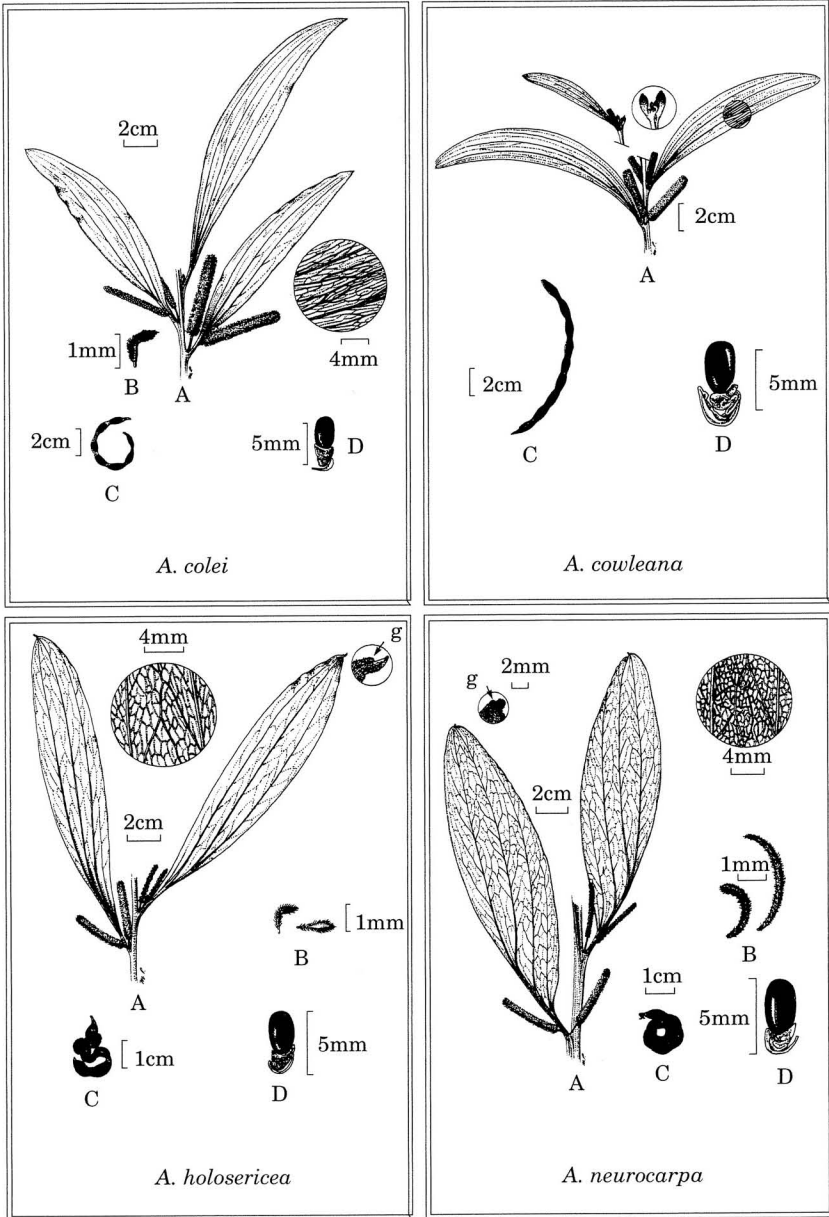


図 1 *A. holosericea* 近縁 4 種の仮葉，種子など (MASLIN & McDONALD 1996)
 A: 花をつけた小枝と假葉 (g: 葉先にある腺), B: 花の小包, C: 莢,
 D: 種子 (下部は種衣と種柄)

ている種はどうやら *A. colei* であるらしい。これら4種の記載されている特徴をみると次のようである。

2倍体種である *A. neurocarpa* は北西部オーストラリアおよび北部準州の湿潤なニッチに分布するもので、形態的な特徴は、とくに幼齡期に仮葉が大きく、幅が広いこと、小枝が硬くて平たいこと、長い小包葉はまっすぐであることなどである。4倍体種の *A. holosericea* はオーストラリア北部の準湿潤地域にある河畔またはウッドランドに分布している。両種の莢は硬く、不規則に捻れている。6倍体種の *A. colei* はオーストラリア北部の半乾燥地に広く分布している。この種は、*A. neurocarpa* と *A. cowleana* (4倍体) が過去に交雑してできたものと考えられている。莢をつけている *A. colei* は、その捻れ方によって *A. neurocarpa*, *A. holosericea* とは容易に識別できるという。ちなみに、冒頭に述べた1993年当時の記憶を辿ると、タンザニアで筆者が初めて見た植栽木は、細分された *A. holosericea* ではなかったかと考えている。

いずれにしても真相は今後の検討に待たなければならないが、アフリカの半乾燥地に出かけられる方は、このような背景があることをご承知の上でオローを観察していただきたいものである。東アフリカでも近頃はあちこちで *A. holosericea* が植えられているが、それらは新たに区分された *A. holosericea* なのか、またどんな経路で導入されたものなのかなど、注意深く調べておくことが必要である。ちなみに、これらの種の簡易な判定法であるが、MASLIN & McDONALD (1996) によると、表1のように要約することができる。なお刊行元のご好意で、同書に載せられている図を転載してもよいということなので、図1に並列した。転載を許されたCSIROのシードセンター、および両著者に深謝いたします。

〔文献〕 THOMSON, Lex (1993) Juliflorae acacias : new food source for the Sahel. NFT Highlights 93-01 MASLIN, B.R. (1995) Systematics and phytogeography of Australian species of *Acacia* : an overview. IFA Newsletter 36 (2) : 2~5 MASLIN, B.R. & M.W. McDONALD (1996) A key to useful Australian acacias for the seasonally dry tropics. CSIRO 80 pp.